

ハンドマイク宣伝例【JR北海道問題——地域の足は国の責任で守れ】

2017年3月1日

道常任委員会

みなさんこんにちは

日本共産党の〇〇です。この場をお借りして、日本共産党の訴えをさせていただきます。しばらくの間、ご協力をお願いいたします。

みなさん

JR北海道は昨年十月、全路線の約半分にあたる一二〇キロ以上を「単独では維持困難」と発表しました。とりわけ台風で被災した富良野—新得間は復旧もせずに廃線、日高線の鶴川—様似間は2年間も放置した上、バスへの転換方針を発表するなど、JRの考え方には重大な問題があります。

しかし、公共交通のかなめである鉄道について、JR一社だけが責任を負うことに、そもそも問題はないのでしょうか。北海道内の道路の維持には、毎年何千億円もの税金が使われています。生活に必要な道路は、たとえ交通量が少なくても「ムダ」ではないからです。ではなぜ、鉄道ばかり「ムダ」であるかのように扱われるのでしょうか。問題は、鉄道の維持をJR北海道のみに押し付けている、国の姿勢にあるのではないのでしょうか。

みなさん

そもそも国鉄が分割・民営化された30年前に、本州と切り離された北海道の鉄道は、すでに赤字が見込まれていたのです。それを承知の上で民営化を無理強いらしたのは国であり、その後のJRを支えるはずの「経営安定基金」の運用益を目減りさせたのも、国の政策です。問題は、「ローカル線はなくならない」などとごまかしながら分割・民営化を行った、政府・自民党にあります。当然、国が責任を持って鉄道を支えるため、負担を負うべきです。そもそも国は、JR北海道の全株式を保有しています。その国が北海道の鉄道を守る役割を担うべきなのは、あまりにも当然のことではないでしょうか。

にもかかわらず、国土交通大臣は「地域の問題」でしかないような無責任な答弁を国会で行い、北海道さえも、来年度予算に鉄道関連の支出はほとんど盛り込むつもりがありません。これはもはや、単なるJRの問題ではなく、行政が先頭に立って解決すべき、政治の問題です。

現在、本州のリニア新幹線には、3兆円にも上る国の財政支援が予定されています。その一方で、北海道の鉄道が切り捨てられ、北海道と、北海道に暮らす私たちが、切り捨てられようとしているのです。このようなことは、絶対に許されてはなりません。

みなさん

鉄道は、多くの歴史を抱えながら築かれた、大切な公共の財産であり、一度なくなれば二度と元に戻せません。鉄道を廃止して栄えた街など、ありません。私たち道民の交通の権利を守る、大切なインフラであり、観光資源としての期待も高まっています。

日本共産党は、国の責任で北海道の鉄道を守るように訴え、そのために全力を尽くします。今こそ、リニア新幹線など巨大公共事業ばかりを推し進める安倍政権を終わらせ、格差をなくし地域の暮らしを守る政治への転換を図ろうではありませんか。

日本共産党が発行する「しんぶん赤旗」は、JRの問題や野党共闘についても、詳しく解説しています。日刊紙はひと月3497円、日曜版は823円です。「しんぶん赤旗」の購読もお願い申し上げます。この場での訴えとさせていただきます。

ご清聴ありがとうございます。